ニッケイ新聞
JORNAL NIKKEY SHIMBUN
DIRETOR PRESIDENTE
RAUL M. TAKAKI
JORNALISTA RESPONSÁVEL
TAKAO MIYAGUI
Rua da Glória, 332 - Liberdade
CEP 01510-000 - São Paulo - SP - Brasil
Tel (11) 3340-6060 | www.nikkeyshimbun.jp

救済会総会

コロナ禍で収入減懸念浮上
赤字１６万レ、イベント中止

救済会の定期総会で開会挨拶をする佐藤直会長

コロナ危機によりサンパウロ州に外出自粛令が出る直前、老人ホーム「憩の園」を運営する社会福祉法人「救済会」（佐藤直（さとうすなお）会長）の「第６８回定期総会」が３月１４日（土）午前１０時から、サンパウロ市文協ビル５階のエスペランサ婦人会サロンで開かれ、入居者家族や会員ら約２０人が出席した。例年なら憩の園からも入居者本人が数人出席しているが、今回ばかりはコロナ感染予防のために施設長の出席のみとなった。

「収支のバランスを保ちやっていたが、ブラジルにも広がりつつあるコロナの影響で明日はどうなるかわからない」―佐藤会長は、総会開会の挨拶でそう今後の不安を口にした。

会員や役員をはじめ憩の園に関わる様々な関係者に感謝の言葉を述べた後、佐藤会長は、コロナウイルス拡大の影響で大きな収入源の一つであるイベントやバザーが開けなくなることへ危機感を示し、別の方法での収入確保を模索する必要がでてきたと訴えた。

「現在入所者は６６人いるが、入居希望者の列ができている。本当なら１００人、３００人と増やさなければならない。そのためには、職員にも若者や専門的知識を持つ人材を取り入れなければならない」とし、そのためにも更なる財源確保が必要だと意気込んだ。

昨年の会計報告では総収入５６７万４９０５レアルとなり、１８年度の総収入５２９万９８６９レアルを上回った。だが、総支出も増えて５８３万３０５１レアルとなり、差し引き１５万８１４６レアルの赤字計上となった。

昨年総会の赤字８万２５３５レアルから２倍近くになっているが、一昨年の４２万７９６６レアルに比べると赤字幅は抑えられている。

その他に昨年度事業報告や今年度予算の審議、２０―２１年度の役員選挙が行われ、承認された。主な理事会メンバーは次の通り。会長＝吉岡黎明、第一副会長＝佐藤直、第２副会長＝本田泉、専務理事＝岩本ジェロニモ、書記＝畑中初美、宮里・サトル・カルロス、会計＝ブルーノ・ロベルト・カルケヴィシウス（Kalkevicius）、清水オリジオ

会長に吉岡黎明氏が復帰

ブラジル日本会議の元会長の徳力啓三さん（79、三重県）は『知っておきたい日本の歴史』を刊行して無料配布していたが、大好評ですぐに在庫がなくなった。そのため急きょ１００冊を増刷し、再び無料配布は始めると表明した。

同冊子はわずか１４６ページながら、旧石器時代から東日本大震災までがコンパクトにまとめられている。しかも、これを読めば、日本が誇る精神的な伝統『和』の成り立ちが歴史的に分かるという一冊だ。

『知っておきたい日本の歴史』
無料配布を再開、電話を

WILLフォンが取次会社変更？
連絡は携帯電話のみ、住所なし

「WILLフォンのチャンネルがまた映らなくなった。会社名と携帯電話が記載されているので信頼できる会社か取材してほしい」。3月17日、編集部に1本の電話が入った。

WILLフォンは日本のテレビ番組が46チャンネルも見られる海外向けのサービスだ。聖市ガルボン・ブエノ街412番にあったJ―Vision社が元々は代理店をしていた。

だが、本社であるWILL株式会社（東京所在）が、日本の消費者庁から「持続可能性がないビジネス」として18年12月、19年7月と2度の営業停止命令等の行政処分を受けたこともあり、J―Vision社は昨年、説明する人員や連絡先は置かれないまま、突然に事務所を閉鎖。料金を払わずに日本のテレビが見られる状態が続いていた。

今回、新たに取次を行うと名乗り出ている会社は「Ippon Tec Soluções informática Ltda」（イバラキ・カズオ代表）。連絡先にはメールアドレスと固定電話がなく、携帯電話（日本語とポルトガル語）のみが画面に表示された。

3月19日、その携帯電話に電話取材を行ったところ、電話口の担当者は「我々は以前サービス提供していたJ-Visionとは無関係の別会社。だから、視聴を継続したい場合は新たに我々と契約しなければならない」という。

会社の所在地を質問すると「代理店と交渉しているため、まだ会社住所はない」との返答だった。

「代表者イバラキ・カズオの漢字を教えてくれ」と尋ねても、電話の担当者は「分からない」とのこと。

念のためインターネットで社名「Ippon Tec Soluções informática Ltda」を検索してみると、公式サイトはなかった。

ただし、伯国内の企業情報が観覧できるサイト（https://www.consultasocio.com/q/sa/eduardo-kazuo-ibaraki）によれば、代表者は「Eduardo Kazuo Ibaraki」。共同経営者はサンパウロ新聞経営業部長だった古城伸子さん。資本金は4万レアルで19年9月11日設立。住所はメトロのコンソラソン駅そばの《Av. Paulista, 2198, 16º andar, sala 161, Bela Vista, Sao Paulo, SP, CEP 01310-300》、電話（11）2626-7362、Eメール（IBARAKI@WILL-G.CO.JP）で登録されている。

テレビに表示された説明文

大耳小耳

「信頼できる会社かどうか教えてほしい」というWILLフォンに関する読者の質問に答えるのは、正直言って難しい。相手は携帯電話でしか連絡先を出していない。何かあっても、携帯電話を変えられたらおしまいだ。だから、記事中に会社が登記されている住所と電話、メールを出した。メールアドレスからはまちがいなくWILL関係者であることが伺われる。あとは、自己責任で判断するしかなさそうだ。

読みたい方は、徳力さんまで直接に連絡（電話＝11・3981・1648）を。

◎

カナダのトロントに住む丸木英朗さんから、外出自粛中の体の動かし方について提案のメールが来た。あちらでは、アパート内のプールもテニスコートもフィットネスも閉鎖されており、室内でも出来るラジオ体操は、NHKのテレビ体操と共に良い運動になると再評価されているとか。「カナダではシニア世代のリーダーがメールで、ラジオ体操のサイト（https://www.tyojyu.or.jp/net/kenkou-tyojyu/shintai-kenkou/radio.html）をシニアクラブメンバーに送り、運動不足防止を促している」とのこと。外出自粛といっても本当は、ウイルスを持っていそうな人に近づかないこと、つまり「社会的な距離をとる」ことが肝要。毎日、2メートルぐらいの対人距離を守って、家の近所を２０分、３０分ぐらい、散歩兼買い物をするのは健康にもよく、一石二鳥か。

（5）

遂に組合創立

１９２３年、ようやくバタテイロは団結して仲買人に迫り、ごまかし封じに成功した。

そのリーダーを務めたのは、村上誠基という人物である。村上はやはり高知県人で、下元家と同じ高岡郡の出であった。黒岩という村に１８９２年に生まれた。下元亮太郎とほぼ同じ歳、健吉より5歳年長だった。

独学で検定試験を受け、小学校の教員をしていた。経済的には、やはり恵まれぬ境遇にあって、上級学校には進学できなかったのであろう。１９２０年に渡伯した。

ピニェイロスのバタタ倉庫の前での組合員たち（1935年頃）

下元家より6年後である。

最初、別の地に入ったが、1年後にビーラ・コチアに移ってきた。その時、亮太郎を頼っている。日本で縁があったのだ。

この村上が、それから2年後に、仲買人との交渉のリーダーを務め、勝ったのである。相当の器量の持ち主だったことになる。交渉には下元健吉も加わっていた。戦闘的に仲買人とやりあったという。

ただ仲買人のごまかし封じに成功したといっても、やはり組合は必要だった。市場の傍に、保管用倉庫を建てねばならなかったからだ。

１９２４年、4度目の組合創立が図られた。この時は組合そのものは登記されたが、稼働しなかった。一部の独走だったため、他の反発を買ったという。

１９２７年、在サンパウロ日本国総領事館が、邦人農業者の産組設立を支援する予算を確保した。東京の本省に、そういう意見具申をしていたのである。

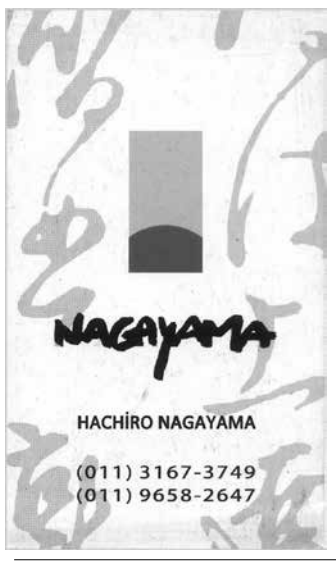
それを知った日伯新聞の三浦鑿がビーラ・コチアを取材、組合設立を慫慂（薦める）する記事を書いた。地元がこれに応じ、同年末、登記した。

創立組合員は83人で、他地域からの参加もあった。

ところが、この国には産業組合法が未だなかった。そのために株式会社法を利用して変則的な形で登記した。その時の呼称は別名であったが、これがコチア産業組合である。

業務開始は翌１９２８年であった。組合本部は当初ビーラ・コチアに置かれたが、後にピニェイロスの市場の傍に移し、そこに保管用倉庫も建てた。

（つづく）



日本人から「桜組」と呼ばれたこのグループはすぐ見分けられた。カーキ色の制服を着、同じ色の軍帽を被って、グループをくんで歩くからだ。彼らの目的は「日本に引き上げる」ことだから、敵国から日本に帰るという意味で「引き上げ論者」ともよばれた。

規則正しい彼らは、短期間のうちに町に住む同胞たちの協賛を得るようになった。まずはじめに参加したのは、臣道聯盟のすじがね入りの会員だった。次に日本への帰国を希望する者があとにつづいた。正輝の名はこのグループのリストの最初の方に挙げられていた。はじめ、彼を説得しようと朝市にやってきたが、断られたので、家まで押しかけてきた。

つい数年前まで強烈な国粋主義だった正輝だが、ブラジルに残って、子どもたちをブラジル人として教育しようとすでに決意していた。グループの者たちは彼の固い決意をひるがえすことはできなかった。

ある日、執拗な彼らの勧誘に腹をたて、2度と勧誘にこないよう家から追い出した。以前だったら、同胞を家から追い出すようなことはしなかっただろう。そんなことをすれば、負け組の反愛国者だとみなされるからだ。今回も強い国粋主義的行動にでた。ただし日本への愛国心ではなく、ブラジル社会に溶け込むためのブラジルへの愛国心からだった。

桜組は有力な協力者をひとり失ったことになるが、それでも運動をやめなかった。市役所にあれこれと許可を申請しつづけた。それが、DOPSの知るところとなった。7年前、臣道聯盟の査問を手がけた機関だ。組織の指導者17人が検挙されたが、活動を停止する気配さえなかった。

１９５４年2月3日、桜組挺身隊は女、子どもを含め１００以上の会員を動員し、プラッサ・ダ・セー広場でデモ行進を行った。「ブラジルの40万人の即刻帰国」と書いた旗をかかげ、広場から日本総領事館まで行進し、そこで声明書を渡した。声明書にはこう書かれていた。

「5年の間、我々はブラジル、日本政府、国連にブラジル在住の40万人だけでなく海外に住む70万人の帰国を申請してきた。海外在住者の国費で直ちに帰国できるよう許可を願う」

かんばしい返答が得られず、領事館に居座ったが、結局、強制退去となった。サントアンドレの桜組の活動はしだいに困難となり、関心を呼ぶためにハンストまでやった。

（236）

コロナ　ますます進む大統領の孤立化

モロ法相がマンデッタ保健相支持
最高裁も検察庁も隔離政策支持
フェイスブックでも投稿削除

新型コロナウイルスの感染拡大に関する国の方針をめぐり、ボウソナロ大統領よりも、ルイス・エンリケ・マンデッタ保健相の方針を優先する声が、セルジオ・モロ法相や最高裁、連邦検察庁にも広がりつつあると、３月３１日付伯字紙、サイトが報じている。

孤立化の進むボウソナロ大統領（Marcos Corrêa/PR）

モロ法相は３月３０日付の臨時官報に、コロナウイルス対策のために国家治安部隊（フォルサ・ナシオナル）を派遣することを認める省令を掲載した。これによると、５月２８日までの期間限定で、医療関係者がコロナウイルス感染者に対応する際の補助、病院や救急医療施設などの治安の確保、医療用の資材や薬品類、食料品、衛生用品の輸送や保管に際しての安全保障、港湾、空港、高速道ならびに市街地での治安確保やその支援などの要請に対し、治安部隊を派遣するという。

これはモロ法相が、コロナ対策においても経済活動継続を主張するボウソナロ大統領ではなく、外出自粛令（クアレンテーナ）をはじめとした社会的隔離を進めるマンデッタ保健相の方針を優先した故の措置と見る向きが強い。フォーリャ紙の報道でも、モロ法相は既に、大統領のコロナ対策に関して強い不満を漏らしていたと報じられており、ツイッターでも「今こそ、科学の専門家の声を聞くべきだ」とする最高裁のルイス・フクス判事の発言を拡散していた。

モロ法相の動きに対しては、ボウソナロ大統領が「エゴイスト」などと呼んで批判していることが、一部のメディアで報じられているが、連邦政府内では、従来は経済優先を強く主張していたパウロ・ゲデス経済相も、「一市民としては隔離に賛成」と発言するなど、マンデッタ保健相の方針に従う動きが目立ちはじめている。

他方、３月３０日夜、最高裁のアウレーリオ・メロ判事が、ボウソナロ大統領のコロナ対策に関する種々の言動に関し、「責任法違反に問うべきだ」とする訴えを、連邦検察庁に送付し、同庁の判断（意見書）を求めていたことが明らかになった。この訴えは労働者党（ＰＴ）のレジナウド・ロペス下議が３月２５日に提出したもので、書類は２日後に検察庁に送られた。アウレーリオ判事は「今の大統領の言動を見てると悲しい」と伯字紙の取材で語っている。

また、連邦検察庁のアウグスト・アラス長官も、「コロナウイルスに関する方針を決めるのはマンデッタ保健相だ」と語り、「もし、大統領が州の隔離政策に反対する大統領令を出すなら、最高裁への異議申し立ても辞さない」との見解を明らかにしている。

一方、３月２９日のツイッターに続き、フェイスブック社も翌３０日、同社が運営するフェイスブックとインスタグラムに掲載されていた、コロナウイルスに関連するボウソナロ大統領の投稿を、「不適切な内容で人に危害を与える恐れがある」として削除した。

東西南北

３月３０日、ボウソナロ大統領は、世界保健機関（ＷＨＯ）のテドロス・アダノム事務局長が記者会見で発言した一部の言葉のみを抜き出して、「健常者は働かなければならない」とツイッターで発言した。大統領は「ほら、ＷＨＯだって働かないといけないと言っているだろ」とし、同事務局長の「貧しい国（エチオピア）の出身なので、働かないと食えない意味はわかっている」との発言箇所の動画を紹介した。だが、アデノム局長は「隔離をやめろ」とは言っておらず、「隔離中に生活苦の人を助けないとならないのは政府」とも発言していた。ＷＨＯはボウソナロ大統領の発言を否定する声明も発表。大統領の世界的信用も落ちるばかりだ。

◉

聖州検察局は３月３０日、１月に起きた宝石商親子殺害事件に関して、５人の容疑者を殺人罪、強盗、死体隠滅の容疑で起訴した。起訴されたのは、殺害されたゴンサウヴェス一家の長女のアナフラヴィア容疑者とその恋人のカリーナ・ラモス容疑者、そして、カリーナ容疑者のいとこのジョナタン・ラモス容疑者、ほか２人の男性容疑者だ。連日のコロナウイルス報道で陰に隠れてしまった印象もあるが、これも引き続き、気になる事件だ。

◉

３月のカンタレイラ水系への降水量は、２月までの雨量が多かった反動か、８８・６ミリと、同月の降水量としては物足りない量に終わった。３月３１日の水位は６４・４％だった。今後は乾季に入り、秋、冬に向けて気温も下がっていく。このことがコロナウイルスの感染にどんな影響を及ぼすかも気になるが。

ＩＢＧＥ　失業率１１・６％と発表
コロナの影響は来月以降

地理統計院（ＩＢＧＥ）が３月３１日に発表した全国家庭サンプル調査（Ｐｎａｄ）の結果によると、昨年１２月～今年２月の平均失業率は１１・６％で、失業者の実数は１２３０万人だったことが分かった。同日付伯字ニュースサイトが報じている。

昨年９～１１月の平均失業率１１・２％と比較すると、０・４％ポイント（Ｐ）上昇しており、昨年６～８月と９～１１月の２期連続で記録した失業率低下が止まった。

ＩＢＧＥの調査分析員アドリアナ・ベリンガイ氏によると、季節的傾向から見て、この時期に失業者が若干増えるのは普通のことだという。

コロナウイルス感染拡大に伴う隔離政策や外出自粛令、特定業種の強制閉店措置などの影響は、今年２月の時点ではまだ出ていないが、ショッピングセンターやレストラン、旅行代理店、小売業、サービス業などは現在大打撃を受けており、３月以降、各分野で失業者が増えることは確実だ。

通常なら、年の初めは前年末の歳末商戦（クリスマスセール）のために雇われた従業員が解雇されるため、「商業」で失業者が増える。だが、今年は、マイナス４・４％だった「建設」や、マイナス２・４％だった「家庭内サービス」、マイナス２・３％の「行政」が失業率を押し上げた。

２月締めの直近３カ月間の平均失業率１１・６％は、昨年２月締めの数値と比べると０・８％Ｐ低い。このことは、１年間で１８０万人の雇用が増え、正規雇用者も約５７万人増えたことを意味するが、労働市場に参加してない人は６５９０万人で記録を更新した。

月額６００レ
上院も緊急援助法を承認
次の過程は大統領の裁可

【既報関連】連邦上院は３月３０日、遠隔会議システムを使って本会議を行い、コロナショックで経済的に困窮する非正規雇用者、零細個人企業家、自営業者、家計の長である母親を援助する緊急援助法（auxílio emergencial）を賛成７９票、反対０票で承認。ボウソナロ大統領の裁可待ちとなった。３月３０日付伯字ニュースサイトが報じた。

同法は一定の条件を満たす非正規雇用者らに月々６００レアルを３カ月にわたって給付するもので、受け取れるのは１世帯２人まで。ただし、家計の長である母親は、１２００レアルを受け取れる。

緊急援助金を受け取るには、年齢や雇用・就労形態などの条件に加え、世帯収入が一定のラインを超えていないこと、また、ボルサ・ファミリア（ＢＦ）以外の社会保障を受け取っていないことなどの条件がある。違反が見つかった場合、援助はカットされる。

ＢＦを受給している人たちに関しては、緊急援助法で受け取る額の方が多ければ、ＢＦは一時的に中断され、緊急援助に置き換えられるが、ＢＦと緊急援助を二重に受け取ることは出来ない。

上院付機関の独立税制監査院（ＩＦＩ）の試算では、恩恵を受けるのはおよそ３０８０万人で、国家財政への影響は５９８億レだ。先週の歳出予測は４３０億レアルだったが、この時は、「家計を支える母親たち」への支払い総額が考慮されていなかった。上院が承認した法案は、通常の勤務形態より勤務時間が短い、または勤務日数が少ないインテルミテンテも対象に含んでいるため、その分も加算されている。

報告官のアレッサンドロ・ヴィエイラ上議（シダダニア）は、下院が送ってきた案にいくつかの変更を加えた。この変更は下院で採決しなおす必要はない。変更の一つとして、「受益者の登録遅れがあったとしても援助が確実に付与されるように、給付金は１カ月に３回の分割払いで支払われる」がなどある。

コロナウイルス感染を避けるため、遠隔会議システムで審議は行われた（Waldemir Barreto/Agencia Senado）

法案では、援助金の支払いは国営銀行が行うことも定義した。また、コロナショックの推移次第で、当面は３カ月間と決まっている緊急援助給付期間を政府が延ばすことも認めている。

また、高齢者や身障者への特別恩給（ＢＰＣ）の受け取り待ちをしている人に対しては、国立社会保障院（ＩＮＳＳ）が３カ月間、６００レアルを前払いすることや、一定の要件が満たされている場合、疾病手当給付待ちの人々に対しても法定最低賃金を支払うことも承認した。

市民相のオニキス・ロレンゾニ氏は、実際に労働者の手に援助金が渡るためにはなお、「ボウソナロ大統領による裁可」と「法令運用規定の制定」、「支払いを実行可能にするための暫定令」の三つの段階を経る必要があるとした。

同相は、「まだ銀行には詰めかけないで欲しい。また、こうした給付金支払いの際には、悪質な詐欺もはびこるから十分に注意するように」とも語った。

「詐欺に注意」と市民相

コロナ禍
検査能力追い付かず、結果待ち３週間も
焦る現場、感染者５７１７人、死者２０１人

【既報関連】新型コロナウイルスの感染拡大の実態把握に不可欠な検査数が分析能力を超え、結果が出るまで３週間という例も出ている。医療現場では、医師や看護婦らへの感染も拡大中と３月３０、３１日付伯字紙、サイトが報じた。

検査能力が超えた端的な例は最初の感染者と最初の死者が出た聖州で、３月３０日現在の感染者は１５１７人、死者は１１３人だが、検査結果が速やかに出ていれば、この数字は更に増える。

同州のアドルフォ・ルッツ研究所は先週までの対応数（１日４００件）を１千件に増やしたが、１日に届くサンプルは１２００件で、１万４千件が分析待ちだ。

感染の有無を知る事は診断確定や治療法を決めるのに不可欠で、感染者と接触した人には隔離を勧める必要もある。検査を必要とする人が増え、結果が出るまでの期間は延びる一方だ。中には、集中治療室に入院中の８０歳の女性の検査結果が２週間経っても出ないとか、居住区の公立病院で検査を受けたが、３週間以上経っても結果待ちという例もある。

現場の苦闘はそれだけではない。聖市のイスラエリタ・アルベルト・アインシュタイン病院とシリオ・リバネス病院が３月３０日に発表した数字によると、コロナに感染した医師や看護婦、職員らは４５６人に上る。中には既に回復して復職した人もいるが、入院中の人もいるという。

同様の事態は聖市のクリニカス病院などでも起きている。聖州公務員組合によると、聖州内の公立医療機関では３月１～２８日に感染または感染の疑いで職場を離れた人が１０８０人いる。

また、聖州の死者の半数以上が出たサンタ・マジオレ病院と初期の死者の一人が出たサンタカタリーナ病院は、死者が出るまで州保健局への感染情報の報告がなされていなかったため、州検察局が、職務怠慢に当たるか否かを調べ始めた。

保健省によると、新型コロナ感染症の最初の感染者が確認された２月２６日から３月半ばまでに重度の風邪（呼吸器系疾患）で入院した人は５７８７人で、昨年同期より４４５％多い。内３５５人はコロナ感染者だ。

他方、統一保健医療システム（ＳＵＳ）は、新型コロナ、デング熱、インフルエンザが同時に流行する事態を想定、準備中だ。３月２１日現在のデング熱患者は４４万１２２０人（死者８８人）で、昨年同期の２７万３１９０人や１８年同期の７万１５２０人を大幅に上回っている上、８８人の死者も出ている。

３月３１日午後４時の保健省発表によるコロナ感染者は５７１７人、死者は１８州２０１人だ。

クーデター記念日
「自由を獲得した偉大な日」
モウロン副大統領らの発言が波紋

３月３１日、１９６４年に軍事クーデターが勃発した日を記念し、軍人閣僚たちが祝福する発言を行い、国民の強い反発を招いた。同日付伯字サイトが報じている。

これはまず、３月３０日にフェルナンド・アゼヴェド・エ・シウヴァ国防相が、自身のＳＮＳを通じて「３月３１日は伯国が自由を獲得した日」と書いて問題になっていたが、翌３１日、アミウトン・モウロン副大統領のツイートで、騒ぎがさらに大きくなった。

モウロン副大統領はこの日に関して、「５６年前に、国民を揺るがした混沌や汚職を軍が食い止めた。カステロ・ブランコ将軍が当選した大統領選で、伯国再編が本格的にはじまった」というツイートを流したのだ。

この発言でツイッターが荒れ、ツイッター上では「ディタドゥーラ・ヌンカ・マイス（軍政は２度とごめんだ）」のハッシュタグが、伯国内で１位になった。

現在、コロナウイルス対策に関するボウソナロ大統領への反感で、軍部がボウソナロ氏を離れ、モウロン副大統領支持に回っているとの報道も一部で上がっているが、その最中に、国民の支持を揺るがすような発言を行ったことになる。

ボウソナロ大統領も同日、この日のことを「自由を獲得した偉大な日」と呼び、三月革命（軍事クーデター）を称賛する発言を行っている。

JAPÃO TRADICIONAL 2020

"Pacote de 17 dias"
◆25, 26, 27, 28, 29 e 31/Março
◆1, 2 e 3/Abril ◆14/Maio
◆10/Setembro ◆15 e 26/Outubro
◆05/Novembro.
ROTEIRO: Dubai, Osaka, Hiroshima, Miyajima, Kyoto, Nara, Kyoto, Takayama, Shirakawago, Nagoya, Hakone, Monte Fuji e Tokyo.
ALFAINTER TURISMO
Visite nosso site: www.alfainter.com.br
(11) 2187-8989(SP)
sao@alfainter.com.br
Pacote Aéreo
ENDEREÇO: Rua Galvão Bueno,33 - Sala 62 - LIBERDADE - CEP.01506-000 - SÃO PAULO -SP

420年前に南米に来た日本人の歴史　ブラジル移民の歴史から学べること
移民と日本人

本紙記者が２０年以上にわたり追い続けたブラジル日系移民の歴史と今を集成した渾身のルポルタージュ
➤ 明治のどんな部分から、ブラジル移民は生まれたのか？
➤ なぜ日系人の中で沖縄県系人が一番多いのか？
➤ 世界最大の日系社会がどのようにブラジルに築かれ、なぜ広島、沖縄、熊本、福岡などの特定県に日本人移民は偏っているのか？
特別価格 R$150
ニッケイ新聞社編『移民と日本人―ブラジル移民110年の歴史から―』深沢正雪著、無明舎出版、2019年
ご注文／お問い合わせ　詳しくはニッケイ新聞社編集部まで。郵便でのご注文は太陽堂、フォノマギ、高野書店でどうぞ。
ニッケイ新聞社 ☎11-3340-6060 | 太陽堂 ☎11-3208-6588 | フォノマギ竹内書店 ☎11-3104-3399 | 高野書店 ☎11-3209-3313

日本移民の為に生涯を捧げた苦労の歴史 上塚周平の生涯
História do UETSUKA SHUHEI
ポ語版特別価格 R$ 25,00

ニッケイ新聞社 15周年記念
お問合せ・お申込は(11)3340-6060

"RYO MIZUNO" - Precursor da Imigração Japonesa -
ポ語版特別価格 R$ 25,00
ポ語版に日本語を併記
移民事業の先鞭を付けブラジルをこよなく愛した水野龍の伝記

特別寄稿

デカセギ定住化30周年
多文化共生時代を生きる日系経営者

友電設（本社・神奈川県横浜市）川崎俊広社長

仕事と同胞ボランティアに全力
経営者目指し19歳で訪日（1）
37歳で夢の電設会社を創業

電気工事士の国家資格取得で、デカセギ文化を変えていく新たなトレンドづくりへ――。1989年に19歳で訪日し、37歳で創業した。今年13年目を迎えた電気工事会社の株式会社友電設。ブラジルから裸一貫で出てきた青年が、いまや従業員100人を抱え、しかも全国規模で事業を展開する日本在住日系人のシンボル的な経営者になっている。同時に日本の経済界、産業界、国民生活にとって欠かせない電気工事分野の会社を育て上げた立志伝中の経営者になりつつある。日系人の雇用の安定化と次世代育成に積極的に取り組んでおり、日本在住の日系ブラジル人社会の中でも、そのボランティア活動とともに、従来型にはいなかった新しいタイプの日本人のリーダー像を築きつつある。

19歳で大志を抱いて両親の祖国日本に飛び立つ

創業経営者である川崎のキーワードはこれだろう。「日本人に負けないブラジル日系人の意地と根性を見せたい」、「事業を通して日本に来た同胞の生活安定と向上のために尽くす」、「今後も同胞のためにボランティア活動を継続する」。

日本に到来した多文化共生社会づくりの経営者リーダーの1人であることは間違いない。

さらに川崎自身を支えてきたのは、「何事にも忍耐強く、最後まで諦めずにやり通すことを信念にいままで頑張ってきた。この成果があり現在に続いていると思う」と自分を貫いているサムライ経営者だ。訪日以来、経営も人生も「何事にも全力を尽くし努力をする」と実践自立の開拓者精神で人生を切り開いてきた。

19歳の時に兄とともに、ブラジル最南端のリオ・グランデ・ド・スル州の州都ポルト・アレグレから、人生の成功者になることを心に秘めて日本に飛び立った川崎青年。

その当時、年率1000％以上のハイパーインフレが続くブラジルから、日本へのデカセギブームが頂点に達した時期だった。

日本はバブル経済の最盛期で人手不足が続き、職種は特に3K（きつい、きたない、危険）分野を中心に単純作業の肉体労働が多かった。川崎も建設労働者として働いた。しかも12年間もの間、転職せずに1つの会社で頑張った。

この時期に仕事中の事故で片目まで失った。並の人間なら黙ってそのままブラジルに帰るか、放浪者になるところだが、川崎には明確な人生目標があった。それは日本で経営者になることを目標にしていたのである。事業主になれば生活がよくなり、不安定な生活をしている同胞を救済することができると考えていたのである。そのとった策が国家試験である電気工事士の資格取得だった。

37歳で創業社長に。人生の転機は妻・瞳との出会い

12年間の人材派遣の仕事で貯めた手持ち資金で起業を本気で考えていた川崎に、転機が訪れる。妻になる瞳の兄が経営していた電気工事会社で働いたことである。この間に専門用語も多い国家試験である電気工事士に見事合格した。寸暇を惜しんで「心不乱に猛勉強した結果であった。そして4年後にこの会社を買い取った。

経営に自信を持っていた川崎は、2007年7月に神奈川県鶴見区に本社ビルを建て、電気設備工事会社の株式会社友電設を自ら創業した。日本で経営者になると決意してから18年の歳月がたっていた。

社名となった友電設の名前の由来は「信頼できる友達の和を広げていく」との理由からだった。日系人というだけで若い時に日本人から差別されてきた苦労が残っている社名でもあった。

川崎と妻の瞳との関係は単なる一般的な夫婦関係にとどまらず、創業期からアドバイザーとして信頼しあえる最良のパートナー関係になっている。会社の基盤構築期から成長・拡大期に入ったいま、そのためにさまざまな分野で的確なアドバイスをし続けている。

「瞳が精神的に支えてくれているおかげで仕事に集中してここまでやってきた」という。瞳とは神奈川県の日本語学校で19年前に出会い良縁の関係になって結婚した。この関係から義兄が経営する電気工事会社に勤め、仕事の技術を習得しながら、従業員の適材適所や人の使い方などを学んでいったのである。

13年で社員100人、全国規模の事業展開へ

同社は、今年夏に行われる予定だった東京オリンピックの開催会場となる国立競技場内の電気工事の指名業者に加わり、歴史に名を残したのを始め、有名な建築物に電気工事で携わっているなど、国民と社会が必要としている会社になっている。

川崎は親の仕事に対する一生懸命な背中を見て頑張ってきた。それが経営理念に反映されている。『常に最善を尽くして納期を守り質の高いサービスを続けること』だ。

事業内容は、施設、テナント、工場、商店、公共施設、共同住宅、一般住宅、電気設備、インターネット、LANケーブル、防犯カメラ、エアコンなどの配管や配線工事、管理などの電気設備工事一切を行っている。

主な受注先を80社（2年前は50社）持っている。「社員を大切にする、人材を人財化する」会社で知られ、創業時8人だった従業員は現在100人（2年前は60人）、営業地域は東京と神奈川県を中心に関東で60％、沖縄県30％、岩手県や三重県など関東県外で10％と全国規模で事業を行っている。「いまは電気工事の技術者がいれば仕事が入ってくる」とうれしい悩みを抱えている。

13年後のいま、社員100人超で全国規模の事業を展開

社員の80%は日系ブラジル人、電気工事士の資格取得で家庭と生活が安定

社員のうち80％が日系ブラジル人を中心にした南米出身の日系人だ。同時に年毎に高まる会社の信用について川崎は「工事品質力の維持と絶えざる向上心、納期を厳守すること、人と人との繋がりを大事にすること」の3点が同社の評価に繋がっており、「実直に仕事を続けておりこれがお客様からの信用に繋がったことが大きい」という。

また会社の成長と発展を支えているのが経営基本方針6か条だ。

「従業員を大切にする家族主義経営」

「日本語習得のための教育予算は惜しまない」

「新規参入事業への進出は徹底的に研究し市場知識を深化させること」

「有能な会計士を雇用し投資管理と会計管理を行う必要がある」

「余計な無駄は徹底して省き支出抑制し会社の在庫や資材は徹底して会社管理下で行う」

さらに人間性重視の人材活性策も注目されよう。

「当社の外国人従業員は派遣型でなく正社員として安心して働ける職場を用意している」「私は電気工事士の資格取得から経営者人生が始まったが、このお陰で職にあぶれた人材を数多く採用することができた」と考えている。

人材育成法も「人材育成を重んじる、従業員とのコミュニケーションを図る、できる限り助言する」という人間性重視の経営で、「これからも寛容さをもって社員の成長を見守り続けたい」「新人も中堅社員も同じ目線で物事を判断できるように心がけている」。

人材の活かし方では「私が来日した時は外国人ということで相当苦労した。そのような思いを後に続く同胞にはさせたくないという思いが強い。日本に来て以来、人間関係の苦労もさんざん経験してきたが、積極的にコミュニケーションをとりそれを打破してきた。私はブラジル人と日本人双方の感覚を持っており、同時にブラジル人と日本人の良いところをうまく融合させる人の活かし方を習得した」と自負する日伯文化を熟知した安心感がある。

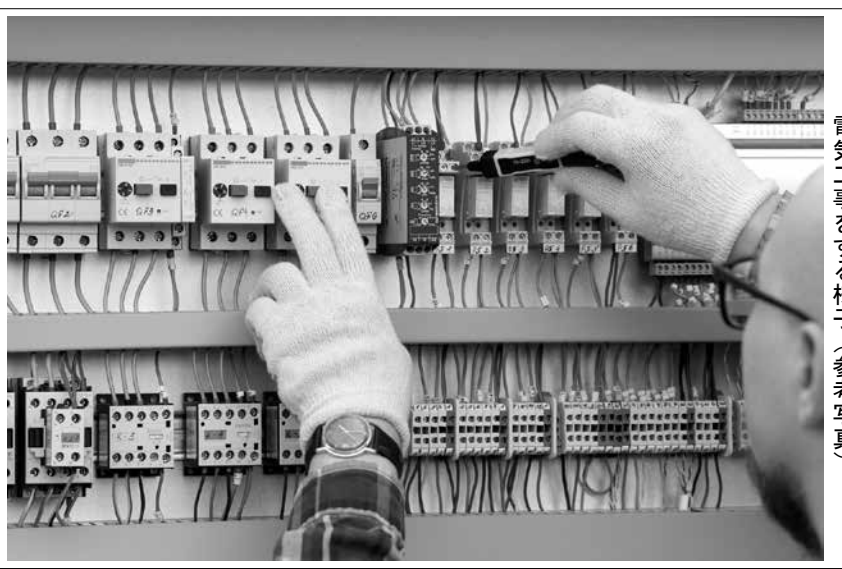
器用さと専門知識が必要な電気工事（参考写真）

デカセギ人生を変えた電気工事士資格取得

電気工事士の国家資格取得を薦めることで、日系人の持つデカセギ文化を定住文化に変えていく新たなトレンドづくりをしている。在日日系人経営者の中でこの変化をつくる先頭グループに立っている1人が川崎俊広だろう。

国家試験の電気工事士の資格を取得した川崎は、専門技術を持つ会社社長として新たな安定した雇用形態モデルの構築に挑戦している。

ここでいう電気工事士とは、「ビル、工場、商店、一般住宅などの電気設備の安全を守るために工事の内容によって、一定の資格のある人でなければ電気工事を行ってはならないことが法令で決められており、その資格のある人を電気工事士」という。



電気工事をする様子（参考写真）

電気工事士の職能団体として社団法人日本電気工事士協会があり「我々電気工事業界にとっては、日本の経済界や産業界はもとより、国民生活の基盤である『電気』の安定供給を支えるのが使命」と位置づけされている。

『在日南米電気工事業者協会』に続き、業者団体の「電友協会」を設立

2016年に設立されたNPO傘下の『在日南米電気工事業者協会』とは別に、鶴見区を中心にした電気工事業者だけの団体『電友協会』（16業者が加盟）を翌年の2017年に仲間とともに立ち上げた。目的の90％は従業員の資格取得などレベルアップを図ることだ。2団体ともに電気工事士の有資格者増に向けて、雇用不安につながる人材会社からの派遣労働という従来型の非正規雇用から抜け出し、正社員型雇用に繋がることが主な目的の一つだ。

川崎の人生、母との絆、そして家族愛

川崎は1970年生まれの日系二世だ。父・春夫は北海道出身で1937年生まれ、母・朝子は樺太出身で同じ37年生まれ。4人兄弟の末っ子として生まれた。少年期に父を亡くして生活環境が一変したが、芯の強い子供に育った。当時の父からの教えは「人の和を重んじること」、母からの教えは「物事にこだわらず大らかに生きること」を教わった。

いまもポルト・アレグレで暮らし、川崎を見守ってきた85歳になる母の朝子は、「俊広が日本で成功し、日本にいる日系人やブラジル人のために尽くして頑張っていることは本当にうれしいことだ。母として俊広を誇りに思う」と語った。

周りから「経営能力に優れ人材育成に努めている」と評価され、「物事には頑固、他人に任すのが苦手、リーダーシップがある」と、人に使われる人生ではなくリーダー人生を歩んでいる川崎には最愛の家族がいる。

妻「瞳」は74年生まれ。川崎は「家族といる時間が息抜きできるひと時なので、これからも家族と過ごす時間を大切にしたい」と心優しく頼りになる瞳夫人をほめた。

子供は長女が「里奈」、次女が「英美里」の2人。家族愛を原点に「人に尽くす、世のために尽くす」人生を歩んでいる。

生活信条は「どんな困難に遭ってもストレスに負けることなく乗り越えることができる」だ。

多文化共生時代を築く経営者リーダーの一人

在日ブラジル人の従来の派遣型による雇用不安を少しでも解消し、こうした安定型雇用に繋がる試みは、デカセギ開始から30年を得たいま、デカセギ文化を変えていく新たなトレンドとして注目されている。

次代の在日ブラジル人社会を担っていく後継世代のために頑張る川崎は、「在日ブラジル人の人材育成に尽力し、日本での活躍の場を広め、かつ両国の絆を深めていきたい」と語る通り、いま注目の経営者の一人だ。くわえてボランティア活動でもブラジル大使館を動かすほどの人物になっている。

今後さらに「日系人のデカセギを社員採用して、安定した生活環境で仕事ができる場をつくってあげたい」という。そのためにも訪日希望のブラジル人は「まずブラジルで日本語や日本の風習を学んでほしい」し、「日系人は日本の文化を学んでから来日してほしい」とアドバイスをした。

会社経営とボランティア活動の今後について、「一定の力と影響力を持つために当面はさらなる会社規模の拡大を目指していきたい」と力強い言葉で取材を結んだ。

（カンノエージェンシー代表　菅野英明）

ペルーから邦人第2陣出国
国境閉鎖で足止め

【サンパウロ共同】南米ペルー政府が新型コロナウイルス対策で国境を閉鎖したため日本人旅行者ら約260人が足止めされた問題で、在ペルー日本大使館の支援で現地旅行代理店が手配したチャーター便が29日、邦人ら121人を乗せて出国した。日本大使館が明らかにした。28日にも在ペルー台湾代表部が手配したチャーター便で邦人29人が出国している。

チャーター便は南部クスコと首都リマで足止めされていた人たちを乗せてメキシコ市に到着した。その後、各自で日本への帰国手段を確保する。121人には旅行者の他に、長期滞在者ら17人も含まれていた。チャーター便の運賃は自己負担となる。

菅義偉官房長官は30日の記者会見で「ペルーおよび台湾側に深い謝意を伝えた」と明らかにした。

リマとクスコ以外の各地には邦人約60人が取り残されているが、ペルー政府が国内移動も制限しているため、日本大使館が引き続き出国に向け支援する。国境閉鎖が解除されるまで現地にとどまる意向を示す旅行者らもいる。

ペルー政府は今月17日から国境を閉鎖し国際線の運航が停止。閉鎖は4月12日まで続く。

ニッケイ歌壇

上妻博彦 選

（604）

サンパウロ　武地　志津

鶴竜は大栄翔を送り出し金星守る春場所初日
御獄海、朝乃山との見応えの攻防戦に寄り切って勝つ
朝乃山、小兵機敏な炎鵬を双方かいなの攻防に降ろす
正大は徳勝竜をがっしりと押し出し、上げる白星ひとつ
曲芸の一こまのごと炎鵬のみごと阿武咲制す肩透かし

「評」何んと観衆不在の大相撲とは初めての事であろう。昨日の記事に「行司の声しか聞こえない、集中出来ている」、全く異例である。何か今場所は三十三歳の碧山の場になるのであろうか。面白い。

サンパウロ　水野　昌之

愚にもつかぬ笑い振りまくタレントはテレビの陰から
白痴化狙う
低級な笑いはびこるテレビ見て明日を背負える若きに不安
高齢者の勤労意欲は本物か働きたいのか嫌々なのか
キッスされ心のうちが読み取れず清くなるのか醜くなるか
蹴るボール転々として行く先までも計算済みというサッカーは凄い

「評」するどい社会詠、高齢者の勤労意欲は、本物なのかと。一首目の下の句『テレビの陰から…』ぞっとする表現ではないか、コロナ・ウイルスよりも、もっと。

グァルーリョス　長井エミ子

何回も手洗いしたくなるような急かする気持のコロナウイルス
週末の飛行機静まるを知らずしてグワルーリョスの空青く裂く
真っ盛りダリアの彩はまばゆくて館に起居する古き人思う
思案するフェジョン馴染めぬ夫の菜見上ぐる空はもう秋の色
幼きは水晶のよう思い出の揺らぐ木洩れ日摘み上ぐるごと

「評」上の句を受け下の句5句主語に運ぶ流れが旨い人、機転が利くと言う意味ではない。数回声に出して唱して見るに、機能が働く語彙が豊かなのだろう。天成の様なものかと思う。一言、〈いくたびも手を洗ひたき思ひなり急かすがごときコロナウイルス〉一首目を文語表現にしますと、こんな風ですが、課題まで。

カンベ　湯山　洋

秋虫の季節となれど騒がしい車の音しか聞けぬ陋屋（ろうおく）
コオロギと共に暮した山の家思い出させる夜の風鈴
爽やかな虫の調べに目を閉じてふるさと偲ぶ夜のベランダ
ふるさとの苦屋で聞いたあの曲と同じ調べの山家の秋虫
ベランダの花鉢の陰に茄子を置き今夜も頼むとコオロギを待つ

「評」小生にはもう取りかへしのつかないことかと思いつつも、五首目の様な生き方を今は亡き妻と同伴して見たかった。自然人生一致融合の境地と言うべき人か。

サンパウロ　安中　攻

野天風呂昼の疲れを一刻の星空ながめ癒せし日あり
開拓地本の借り貸し唯一の楽しみとして日々を過しき
友人の看病づかれを労って病室を出（い）で朝日眺むる
秋篠宮来伯記念碑横に見て今日も病床の友を見舞いし
プリマベーラ時を忘れず垣根越し真赤に咲ける散歩路を行く

「評」謹厳実直な歌人と言うべきか。二首目の『本の借り貸し』の日々が、氏独自の感性を磨き上げているのであろう。

サント・アンドレー　宮城あきら

復元の汗の宝玉火の海に首里高台になべて消えゆく
燃え失せし世界の遺産首里城の遺宝の重み今ひしひしと
首里城跡遥かなる日の学び舎が瞼を走る焼炎の中
王城の石垣石工の独自さを問いし教授の目差し遥けし
琉球のはるか歴史の地底より新た夢みむ幻の城

「評」世界遺産である首里城が、今回の災禍で燃え失せた。琉球のはるか王城の歴史を追想するのは氏だけではない。隣接していた学び舎が焼炎の中に浮ぶのである。石垣の独自さを問いし教授の目差しもはるかな歴史を夢に追いつつ、更なる復元への汗を滲ませているのだろう。

サンパウロ　木村　衛

〈老いる〉
子や孫が楽しくあれば吾も楽し　ふと気がつけば生かされており
咳込むる我が背を叩く幼な児の　やさしき仕種に心ぬくもる
歳とれば厨に入りて亡き妻の仕種をまねる不器用なわれ
人の知恵限りなく伸び展くれど情理の道は変わらじと思（も）う
酩酊し辿りきしことふと思う迷路に惑う蟻にかも似む
開けゆきＡＩ電子の世となれど原始のビールス世界ゆるがす

「評」前半三首、家庭内の雰囲気に楽しさを感じながらも、更に生かされていることに感謝が湧き、小さな拳の柔きぬくもりも、いまは亡き妻のなごりまでが厨にいる一つになって伝はるのである。「これが「老いる」と言うことかと、作品の中に語っている。共感のもてる作。

サンジョゼ・ドス・カンポス　藤島　一雄

カラガタツーバの浜辺にしばし佇みて海の彼方の母国を偲ぶ
激増す車の数におどろきぬ走る密室無事故を祈る
五輪までに新型コロナウイルスの終息消滅ひたすら願う
日本語にカタカナ言葉が入り乱れ戸惑う吾は時代おくれか
八千草に続き野球の金田逝く同年の吾に訃報は淋し

「評」渚に佇む作者の姿賀彷彿として浮ぶ作、こうして涙腺を滲ます作は、歳を重ね純朴な心になって、はじめて子供の様な気分に浸ることが出来るからなのであろう。そして祈願と反省と、回想のなかに侘びしさを噛みしめる齢なのである。

千葉県　柞木田やすひ

うみ月の近づく娘へとしたたむる産着にそえて包む切餅
生きのこるひとりの叔母のもてなしよ煮染め、エビフライ大皿に盛り
小日向にぬく温くねむる三毛の背にトンボ来たりてひたりと止まる
昨夜（よべ）つみし雪畑ふみてほる野菜みづみづしかりしばれるほどに
風ぬるむこのはや春の紅梅のつぼみほぐれてめじろの声す

「評」嫁ぎ先の親族を詠み、そしてその繋がりの深さを、娘の嫁ぎ先や自分の兄妹等に作品で伝える、その為に歌を詠みつづける。歌会の集まりに顔を出すのは接待の手伝いの外は、関心を示さない。仕事は高齢者看護の明け暮れ。『雪畑ふみて…』は夫の故郷青森県、作者は鹿児島県種子島。

サンパウロ　上妻　博彦

〈憂いなき現今〉
息（こ）と嫁と我とが深くうなじ垂れさやかに受くる幣（ぬさ）さばく風
弟の祝詞（のりと）のしらべ継ぐ声音（こはね）姪子は交通安全を宣（の）る
随分と危ぶみもして妻と子と山にこもりて炭焼きしなり
窯の辺に正午（ひる）サイレンを真似る子に斧打ち止めて山を下りぬ
三歳で連れこられしがわが前で大息（おき）そつく還暦こすと
くつきりと熟れ麦の畑かこみたる水田（みづた）にはやも皐月の風が
麦の秋いまだ残れるめぐりには早苗田光る日本の景
麦の秋さつき早苗田整然と垣根に鬩ぐ憂ひなき現今（いま）

◎投句送り先
HIROHIKO KOZUMA
R. dos Jacintos, 372,
ap.51,-SP CEP:04049-050
TEL: 11-2818-9293

読者文芸。

モジダスクルゼス俳句会（3月分）

粉を挽く納屋の室にてちちろ鳴く　山本　康子
誘われて再び俳句秋の句座　尾場瀬美鈴
糸菊の細き花びら凜と立つ　大石喜久江
去る友のくれし句帳に記す秋　るみ子
秋晴や地鶏大きく羽ばたきぬ　檀　正子
宇宙より地球へ土産流れ星　秋吉　功
星間の夢の鉄道流れ星　村上　士郎

くろしお句会（3月分）

健康で働く喜び夜食とる　井上　人栄
コスモスに心うばわれ時忘れ　石井かず枝
長き路明るい未来竹の春　伊藤みち子
ふうふうと夜食の雑炊梅落とす　太田　映子
恐ろしや世界を走るコロナ風邪　大野　宏江
コスモスの花が揺れてる踊つてる　上村　光代
爽やかや尽きぬおしゃべり尽きてより　串間いつえ
見舞ふ手を離さず友の秋深し　篠崎　路子
炊き立てのおにぎり子への夜食かな　鈴木　文子
そこはかと森羅万象秋の声　田中美智子
コスモスの優しき乙女見る様に　玉田千代美
コスモスや風との対話楽しげに　富岡　絹子
首里城の人まばらなる秋の声　那須　千草
母作る夜食楽しみ夜業かな　原　はる江
目に見えぬ敵に怯ゆる秋の声　林　とみ代
コスモスの風に密かな街の音　馬場園かね
古里に今は父母なし星流る　広田　ユキ
コスモスや我真実の友を持ち　平間　浩二
コスモスや写生の子等に揺れやまず　須賀吐句志

福博短歌会（3月分）

桃の実は日々に太りて袋かけ今日は風なくはかどり　寺尾　芳子
てゆく
体操があってもなくても外に出る只それだけで心が　青柳　ます
和む
はて今日は水曜日否木曜日前の公園にフェーラがか　杉田　征子
かる
白髪がいくらか目立つようになり朝の鏡を見つめて　酒井　文子
いたり
生前の子が買いたりし革靴を老いたる夫は好み履き　藤原よし子
ゆく
夏の空を越前クラゲがムクムクと攻めくるような夕　内谷　春美
立雲立つ
夫逝きて一人となりし我が日々を子や孫たちが労り　内谷　美保
くるる
寝ていても足の痛みはよくならず生姜湯のんで楽に　杉本　鶴代
なりたり
ダイエットしているつもりがいつしかに逆方向に進ん　野村　康
でいたり
カーニバルの近くなりしを目に見せて知らせてくる　内谷　春美
るクワレズマの花　故・原　君子

「塔」歌会記（3月分）

食卓に茗荷のみじんいりごまとそうめんならぶ夏蘭　山上　元
けの昼
自ずから盆栽となる鉢の樹々日かげで育ち花見はな　山本　康子
らず
草取りに脚つり立てず助け呼ぶ小雨の中を泥んこの　流　千里
まま
ブラジル語について行けずに老移民子らで賑わう席　藤重　昌子
をはずしぬ
頭のせ草取り靴に眠りおり仔犬休めとわれにいうが　三茄女
に
もう二時間動かぬバスに石でいる目的地にはたどり　沼　寛子
着かねば
春の陽を吸いたる布団をとりこめば幸せの香の部屋　野口　民恵
にただよう
雷鳴とつんざく光に立すがた見する真白き胡蝶蘭あ　山川　知子
り
金魚草音たてるがに咲きほこり暑き日射しに音なく　滝谷ひさ子
落ちし
声もなくスマホに向う高校生指の動きは魔術師のご　夏　笑子
と
日曜日に知らぬ町に来マクドナルドでぱくつくはめ　神林　義明
になりにけり
黒豆の塩味主食に六〇年肌はそれより日に焼け黒い　武井　貢
日溜りの年寄りたちに小鳥らは鳥のことばで歌を聞　後藤　弥生
かせり

窓ガラス伝う雨粒あか黄いろ夕光に映えひかりつつ　五木田洋子
消ゆ
あんぐりとわた菓子を食う子らのごと雲をみあげる　岡野　くに
真夏の雲を
孫の字を左右に分けて離れゆけりただ一人なるわが　滝　友梨香
少年は

〈歌会記〉

ＮＨＫ全国短歌大会の日に、石田比呂志先生がわたし（滝）に「歌は作るものだ」と教えてくださいました。この先生はご存知のように、啄木に憧れ歌人になられた方。普段見ていることをくどくど説明せず、反骨精神を培い、アイロニカルに人間の存在を詠う先生の歌集「老猿」から。

今度こそうまく世間を渡ろうと縁のかけたる猪口と歳越ゆ
同じ道ばかり歩いて来たもんでほら見てご覧この片減りを
―この道は人生を振り返ってればの意味。
無知蒙昧（むちもうまい）操行不良無為徒食品性稍下（ややげ）血液型Ｈ
―漢字だけでも韻律がある。Ｈは性的な意味あいを持つ。
ぶらんこを漕いでいる児よ早よ帰ろ北風小僧がもうやって来る
花は葉を葉は花知らぬ曼殊沙華棺の中は寒いのだろうか
酒のみてひとりしがなく食うししゃも尻から食われて痛いかししゃも

この歌集『老猿』から、どう表現してもよいが、ただ定型に詠えばよいのではなく、歌に韻律があること。無いのは散文、むだな言葉や助詞がないことも見え、それは一首ごとに工夫があるかどうか纏めたときに見える、と私は学ぶことができましたが、いまだにそれができない私です。

孫の字を左右に分けて離（か）れゆけりただ一人なるわが少年は

私の一首が分かりにくいそうで説明します。調べると〝孫〟の字は「子の子へと二筋に繋がる」と書かれています。〝孫〟の字を左右に分けると子と系になり、子は孫の父親、系は家系の系と私は判断し「離（か）りゆけり」は孫の字を左右に離した意味で、「去る」とせず「離」を使いました。

「塔」歌会は栃木県人会館にて
毎月第二水曜日一時～四時
電話　五六八六・七五八九

滝　友梨香

投稿者におねがい

◎各俳句会や短歌会等での作品等、投稿をお待ちしています。
◎読みやすい書体で書いてください。
◎Ｅ・メールでの投稿を歓迎します。
送り先はニッケイ新聞「読者文芸欄」係。
Ｅメール
bunguei.nk @gmail.com

介護予防にフレイル健診
まず「指輪っかテスト」を

【共同】７５歳以上のお年寄りを対象に、要介護の一歩手前とされる「フレイル（虚弱）」の状態になっていないかを調べる国のフレイル健診が、４月にスタートする。この健診の元になったフレイル予防の検査の仕組みなどを開発・研究してきた〝フレイルチェックの生みの親〟の一人である医師で東大教授の飯島勝矢さんに、話を聞いた。

〝生みの親〟飯島さん推奨

「おばあちゃん、おじいちゃんがずっと元気で活躍でき、地域の支え合いが続くようにするため、フレイルについて多面的に調べて健康状態の全体像を知る必要があります」と飯島さんは説く。

２０１５年度から始めたフレイルチェックでは、栄養、口腔、運動、社会性・こころの各側面で調べる。具体的には「野菜料理と主菜（肉か魚）を両方とも毎日２回以上食べているか」「１日３０分以上の汗をかく運動を週２回以上、１年以上続けているか」「１日１回以上は誰かと食事をするか」など１１項目の質問と、かむ力や握力、手足の筋肉量など１１項目の測定をし、総合的に診断する。

「なるべく体を動かし、しっかりかんで、みんなとわいわい食べるという昔からの健康維持の原則は今も大切。当たり前の知恵をお年寄りが改めて自分事として感じ、実践するための仕組みがフレイルチェックです」

フレイルの引き金として最も警戒されるのは、筋肉の衰えた状態の「サルコペニア」。タンパク質が豊富な肉食を敬遠したり、歩くことや人付き合いをおっくうがったりすると筋肉が衰える。そこで、筋肉量を自分でチェックする方法として飯島さんらが考案したのが「指輪っかテスト」だ。

両手の親指と人さし指で輪を作り、利き足でない方のふくらはぎの最も太い部分を囲む。指とふくらはぎの間に隙間ができたら、サルコペニアの恐れあり。「サルコペニアになると死亡率が上がるのは調査で明らか。身近な場で簡単にできるので、ぜひ試していただきたい」

フレイルチェックの会場は「とにかく楽しい」と評判。経験豊富な高齢者の市民ボランティア「フレイルサポーター」が、来場者を手助けする。「同世代で健康づくりを支え合うワンチームです」と飯島さん。こうした雰囲気が、新しい健診でも引き継がれそうだ。

超高齢社会でお年寄りたちがフレイルになれば、町もフレイルになる。「健康づくりは町づくり」だと多くの自治体に気づいてほしいという。「行政担当者にフレイル予防の取り組みをもっと地域で準備してもらって、市や町や村を挙げての希望に満ちた健康づくり運動にしていきたい」

全国のフレイルサポーターらの集いで、参加者とともに「指輪っか」を作る飯島勝矢さん（前列中央）＝東京都文京区（共同）

フレイル予防こそ、今の日本の地域に何より必要です」と飯島勝矢さん（共同）

桂宗助が八十八襲名へ
師匠・米朝の俳名

【共同】落語家の桂宗助が、師匠で人間国宝の故桂米朝の俳名を引き継ぎ、桂八十八を来年夏に襲名すると発表した。米朝の端正な芸風を受け継ぐ正統派として高い評価を受けている。「プレッシャーですが、何とか打ち勝ちたい」と意気込む。

幼少期から落語が好きで、板前を経て１９８８年、米朝に入門。住み込みで修業した最後の内弟子となった。語り口が米朝の〝生き写し〟と言われることが多く「師匠は『わしの言う通りにやれ』という人。口移しでずっと教わりましたから」と振り返った。

襲名の話は昨年夏ぐらいに持ち上がり、当初は「師匠の俳名なんて、とても」と固辞していたが、米朝一門の桂南光らに説得されて決意したという。

もともとは大阪市で予定されていた落語会「米朝まつり」の口上で襲名を発表するはずだった。しかし新型コロナウイルスの感染拡大防止のため落語会が中止となり「仕方ないことですが、残念としか言いようがない」と話した。

桂米朝の俳名、八十八を襲名する桂宗助（右）と米朝の長男、桂米団治（共同）

VENDA em BANCA

Nikkey Shimbun
ニッケイ新聞

TEMPLO XINTOISTA DO BRASIL
南米神宮
開運 沼矛八方祓
Rua Estado de Israel, 76 - Vila Clementino SP
Tel: (11) 5575-4783 – www.temploxintoista.org.br

ANO XXIII – Nº 5459 SÃO PAULO, QUARTA-FEIRA, 1° DE ABRIL DE 2020 R$ 5,00

特別寄稿

国境線を鉄条網で閉鎖したPJC市
新型コロナ対策で米国に連帯示す

パラグァイ在住 坂本邦雄

パラグァイでは新型コロナウイルス（Covid—19）感染防止の検疫（Cuarentena）が3月11日より開始され、3週間が経ったところだ。30日現在で確認された患者数は65人、死者は3人、快復者は1人という数字だ。

そんな中、去る26日にブラジルのポンタ・ポラン市とパラグァイ側ペドロ・フアン・カバリェーロ市（PJC）が背中合わせする陸続きの国境線を、パラグァイの陸軍及び警官隊の合同タスクフォース＝特殊部隊（FTC）が、鉄条網を張って閉鎖した。

ブラジル側からの人々や自動車、バイク等が我がPJC市へ安易に渡れぬ様に警戒作戦を、ソト・エスティガリビア国防大臣監視の許に開始した。

これによると、ポンタ・ポラン市と我がペドロ・フアン・カバリェーロ市には、30カ所のボカカリエス（街路入口）があり、それを厳重に見張るものだと云う。

この措置は、世界中で目下パンデミアブームで恐れられている新型コロナウイルスの拡散を防ぐためである。ちなみに隣のポンタ・ポラン市では、既にコロナウイルスの患者が複数確認されている。

話に聞くと、ブラジルのボウソナロ大統領は、このパンデミアブーム対策自体が及ぼす、色んな社会的又は経済的な悪影響を疑問視、軽視していて、その対処に消極的で、世論の評判が悪いと云う。

一方、パラグァイでも余り偉そうな事は言えないが、一応、国連のWHO（世界保健機関）やPAHO（汎アメリカ保健機関）の方針に沿ったCovid—19対策を取って居る事は認められている。

在アスンション米国大使館の27日付公報によると、アメリカ政府はパラグァイ政府に対し、Covid—19対策遂行の目的で、130万ドルの寄付を与える事が報じられた。

リー・マクレニー大使は、ビデオ報道の初めに、「ここで、パラグァイ及び我がアメリカ合衆国を含む全世界は、現在非常に困難な事態に直面している」と語り、当国行政府が適切に執って来た緊急の衛生危機対策を高く評価した。

強い絆の反映

このホワイトハウス（白亜館）の援助は即ち、米国とパラグァイのいつもの良好な、かつ益々強固な関係を明らかに反映するものだと、大使は強調した。

リー・マクレニー大使は、この援助資金はUSAID（アメリカ合衆国国際開発庁）が他の協力機関UNICEF（国際連合児童基金）及びPAHO（汎アメリカ保健機関）それぞれの協調の許に管理、かつ運用されるものであると説明した。

そして、非常時の危機においてこそ、友好国間の相互援助や協力が真にその尊さを発揮するものだと、最後に締め括った。

米国のドナルド・トランプ大統領は我がマリオ・アブド大統領の政権を強く支持している事は周知の通り。かつてのF・ルーゴ大統領以来、ホワイトハウスのオバールオフィスで接見を受けた初めてのパラグァイ大統領なのだ。

なお昨年の9月6日には、父君のトランプ大統領の補佐官、イヴァンカ・トランプ女史は、ラテンアメリカ地域外遊の途上、パラグァイを公式訪問し、アブド大統領夫妻と親しく面会している。

アメリカは最近、世界で一番のCovid—19の患者数が確認された被災国になった。

去る26日（木）の夜、大統領府のロペス宮殿は、合衆国の星条旗を彩った電飾に輝き、かかるアメリカの罹病規模に対し連帯感と憂いの念を表した。

この様な意思表示は、先にイタリアのケースに付いても、同じ様に同国の国旗を彩った電飾を以って示されていた。

ロペス宮殿
(Fotografía tomada por "globevisions" usuario de Flickr)

東京で78人感染、7人死亡
1日最多、全国2百人超増
緊急事態ぎりぎりの判断

【共同】京都は31日、新たに78人の新型コロナウイルス感染が判明したと発表した。1日の感染者数として最多を更新した。既に感染していた患者のうち50～70代の男女7人の死亡も明らかにした。大阪でも最多の28人が判明。全国の増加幅は初めて200人を超えた。国内の感染者の累計は、クルーズ船の乗船者と政府チャーター便による帰国者を除いて、2千人を上回った。

各地でクラスター（感染者の集団）が拡大。政府は緊急事態宣言を発令するか、ぎりぎりの判断を迫られている。国内では岩手、島根、鳥取を除く44都道府県で確認された。

東京都内の感染者の合計は521人となった。31日に感染が判明した78人のうち、経路が不明なのは49人で、重症者は1人。多数の感染者が出ている永寿総合病院（台東区）とは10人が関連し、死亡した7人のうち5人も関係者だった。

同病院での死者は計7人となった。この日の年代別では20代から40代で計50人を占め、小池百合子知事は若い世代の感染が増加しているとの認識を示し、感染経路の調査を進めるために保健所の態勢を強化する方針を明らかにした。

小池氏は同日、安倍晋三首相から要請を受けて首相官邸で面会し、都内の感染状況や病床確保などの現状を報告。終了後「東京では感染者が大変増えている。このような場をいただけて良かった」と報道陣に語った。緊急事態宣言についても「国家としての判断が求められている」と言及した。

政府は感染経路を丹念に追跡することで、クラスターを小規模のまま封じ込める対策に重点を置くが、千葉の障害者福祉施設では90人超が感染。岐阜の合唱団や大分の病院でもクラスターが新たに発生した。京都産業大（京都市）では卒業祝賀会で集団感染が起こるなど、症状が軽くて見過ごされやすい若者の事例も目立っている。

東京では3月25日以降、一気に1日数十人のペースで感染者を確認。小池知事は都市封鎖の可能性に言及した。

安倍首相は緊急事態宣言に関し、現時点では「ぎりぎり持ちこたえている。瀬戸際の状況が続いている」との立場だ。感染者数のさらなる急増が懸念される東京都などの動向を注視。宣言が国民生活に重大な影響を与えることを踏まえ、多方面からの専門的な知見に基づき、慎重に判断する構えだ。

雇用「改善」の言葉消える
厚労省、新型コロナ考慮

【共同】厚生労働省が31日発表した2月の雇用情勢判断で、2013年5月分以来、6年9カ月ぶりに「改善」の言葉がなくなった。新型コロナウイルスの影響を考慮した。厚労省が同日発表した2月の有効求人倍率（季節調整値）は1・45倍で、1・49倍だった前月から0・04ポイント低下し、2カ月連続の減少となった。1・45倍まで落ち込んだのは2年11カ月ぶり。新型コロナウイルスの影響に関し厚労省は「観光関連業などで解雇や休業といった動きがある」とする一方、「全体の水準に影響を及ぼすまでにはなっていない」と説明した。

米中貿易摩擦の影響もあり、製造業などは以前から求人の低下傾向が続いている。今年1月から求人票の記載項目が増え、昨年12月に駆け込みで募集したり、募集を見送ったりした企業があったことも一因という。

加藤勝信厚労相は31日の記者会見で、有効求人倍率に関連し「内定の取り消しも増加しているので、注視する必要がある」と話した。

求人票の見直しの影響を除いた有効求人倍率は、1・52～1・53倍と試算した。

有効求人倍率は求職者1人当たりの求人数を示す。都道府県別では東京都が1・96倍で最高、神奈川県が1・06倍で最低だった。

一方、総務省が31日発表した2月の完全失業率（季節調整値）は2・4％で、前月と変わらなかった。完全失業者数は前年同月比で3万人増えて159万人となり、4カ月ぶりに増加した。

総務省の担当者は、新型コロナウイルスに関し「今回の調査では雇用に影響は見られなかった」とした。ただ「宿泊や飲食、製造や小売りなどの業種で今後、かなり影響が出てくる可能性がある」と分析した。今回の調査は2月23～29日の状況を反映している。

男女別の失業率は、男性が2・6％で前月比0・2ポイントの悪化、女性は2・2％で横ばいだった。

米の死者3千人超える
軍病院船、NY到着

【ニューヨーク、ワシントン共同】米ジョンズ・ホプキンズ大の集計によると、米国で新型コロナウイルスに感染した死者が30日、3千人を超え、感染者も16万人を超えた。死者数が3千人を上回ったのは、スペイン、イタリア、中国、フランスに続き5カ国目。

感染者が激増する東部ニューヨーク市には30日、約千床のベッドを備えた米海軍の病院船コンフォートが到着した。31日から新型コロナ感染者以外の急患に対応し、医療施設の負担軽減を図る。

トランプ大統領は30日の記者会見で「100万人以上を検査した」と強調し、感染者増加は検査数の増加に伴うものだと説明した。

一方、ニューヨーク州のクオモ知事は記者会見で、感染者の増加に歯止めがかからないことについて「状況は極めて深刻だ」と強調、党派や州の枠組みを超えた協力が必要だと呼び掛けた。

同州では感染による死者が初めて千人を超え、1218人に上ったことを明らかにした。感染者は6万6497人で、9517人が入院。うち2352人が集中治療を受けている。病床不足が特に深刻化しているニューヨーク市では、大規模コンベンションセンター内に臨時病院が完成。マンハッタンのセントラルパーク内にも臨時病院が建設中で、近く運用が始まる。

解雇や雇い止め千人超
見込み数、新型肺炎の影響

【共同】厚生労働省は31日、新型コロナウイルスによる業績悪化などで、解雇されたり雇い止めされたりする見込みの人が、30日時点で1021人に上ったことを明らかにした。観光バス事業や宿泊業が多く、地域では成田空港があり訪日外国人客向けの観光産業が盛んな千葉県や、中小企業が多い大阪府が中心。

企業が従業員を休業させた場合に支給する「雇用調整助成金」に関連する相談は同日時点で3825事業所から寄せられている。観光バス事業、宿泊業に加え、製造業からの相談も多い。

厚労省の担当者は「（雇用調整助成金の活用を検討するなど）雇用維持に向けて努力をしている事業所が多い。なるべく踏みとどまっていただきたい」と話している。

1月31日以降、各地の労働局を通じて集計。今春卒業する学生らの内定取り消しは30日時点で22件33人になった。

クールビズ期間設定せず
21年度から、環境相表明

【共同】小泉進次郎環境相は31日の記者会見で、軽装や重ね着などの工夫で冷暖房の使用を控える「クールビズ」と「ウォームビズ」に関し、2021年度から実施期間を設定しないと発表した。冷暖房の適切な温度設定など二酸化炭素（CO2）排出削減の呼び掛けは続けるが、具体的な実施期間は各企業や団体に委ねる。

在宅勤務の増加など働き方や職場環境が変化していることを踏まえた。環境団体「気候ネットワーク」の田浦健朗事務局長は「クールビズは国民参加を促した一方、温暖化対策のアリバイにもなった。見直しを機に本質的なCO2削減策の議論を進めてほしい」と話す。

現行ではクールビズは5月1日～9月30日で室温を28度、ウォームビズは11月1日～3月31日で室温を20度に設定するよう推奨してきた。21年度からはクールビズとウォームビズを統合し、服装にはこだわらず一年を通じて冷暖房の適正利用を働き掛ける。

小泉氏は「大事なのは一人一人が考えることだ。より良い実施方法を考えたい」と述べた。

クールビズやウォームビズを含め現在19ある環境省の期間行事を巡っては、小泉氏が1月に設置した「選択と集中」実行本部で見直しを議論していた。期間行事は環境月間など6に縮小し、残りは通年で対策に力を入れるなどとした。

厄除・自動車交通安全
南米神宮
（二）五五七五・四七八三

移動制限、丁寧な説明必須
WHO、安易な運用戒め

【ジュネーブ共同】世界保健機関（WHO）で緊急事態対応を統括するライアン氏は30日、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて世界各地で導入が進む移動制限措置について「各国政府は国民に対し、なぜ必要なのかを隠し立てせず、分かりやすく伝えることが肝要だ」と述べ、安易な運用を戒め、丁寧な説明が必須と強調した。

ライアン氏は、都市封鎖などの措置は「移動の自由を侵害するので、非常に慎重にやらなければならない」と指摘。また「都市封鎖だけではウイルスを撲滅できない」と述べ、感染疑い例へのウイルス検査や感染経路の特定、隔離といった地道な対策を決して怠らないようくぎを刺した。

またテドロス事務局長も、都市封鎖などは感染拡大を遅らせ、医療体制崩壊を防ぐ「時間稼ぎ」には使えるとしながらも「社会保障制度が整っていない国もある」と指摘。「日々の糧を得るために、毎日働かなければならない人がいることを忘れてはならない」と強調し、移動制限や営業停止措置に伴って収入源を失う人々に配慮した対策を取るよう各国に求めた。

ライアン氏は「社会が受け入れられるものであるかどうかを、各国政府は最重視しなければならない」と言明。移動制限を導入する場合、人々が順守して実効性のあるものにするためにも「影響を受ける国民の人権や尊厳が尊重されなければならない」と訴えた。

自給率45％目標を閣議決定
農政指針、輸出は5倍に

【共同】政府は31日、農業政策の指針となる「食料・農業・農村基本計画」を閣議決定した。カロリーベースの食料自給率を2018年度の37％から30年度に45％に引き上げることなどが柱。農林水産物・食品の輸出を30年に現在の5倍を超える5兆円に拡大する目標も掲げる。国内市場が縮小する中、輸出促進で農家の所得向上を図る。

基本計画は今後10年間の農業政策の方向性を示した政府の指針で、5年ごとに見直す。

自給率の目標は、25年度に45％に引き上げるとしてきた従来計画と同じ水準で据え置いた。ただ達成時期は30年度に先送りとなる。消費者のコメ離れや食生活の洋風化などの変化もあり、実現は容易でなさそうだ。

生産額ベースの自給率は18年度の66％から75％に引き上げる。基本計画では、自給率向上に向け需要が堅調な外食・中食向けのカット野菜の生産工場を増やしたり、輸入依存度が高い小麦や大豆への転作を進めたりすることを盛り込んだ。

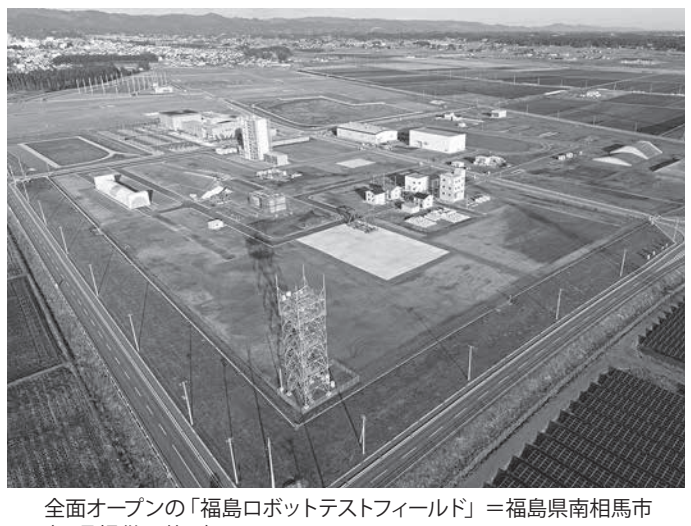
国内農業の生産基盤維持のため、農家の所得向上を重要課題と位置付け、農産物や食品の輸出も大幅拡大を目指す。

ただ19年の輸出額は前年比0・6％増の9121億円にとどまり、政府目標の1兆円を達成できなかった。農林水産省は今後、司令塔となる「農林水産物・食品輸出本部」を4月1日に立ち上げ、新たな目標となる5兆円の達成を目指すが、新型コロナウイルスによる世界経済の減速で当面は輸出を増やしにくい状況が続くとみられ、抜本的な戦略見直しを余儀なくされる可能性もある。

ロボット拠点全面オープン
福島被災地、技術革新期待

【共同】東京電力福島第1原発事故で被災した福島県沿岸部の復興支援の一環で整備を進めていたロボット研究開発拠点「福島ロボットテストフィールド」（南相馬市、浪江町）が31日、全面オープンした。

被災地を中心に新産業創出を目指す「福島イノベーション・コースト構想」の目玉拠点の一つ。県は「県内外の企業が結び付き、革新的なロボット技術や製品を生み出せるよう取り組みたい」と期待を寄せる。


全面オープンの「福島ロボットテストフィールド」＝福島県南相馬市（同県提供、共同）